

出席停止となる感染症一覧表

栃木県立足利中央特別支援学校

学校において予防すべき感染症については、その種類と出席停止の期間が「学校保健安全法施行規則」で定められています。学校は集団生活の場ですので、人から人に感染する感染症の場合、他の児童生徒に感染するのを防ぐため、また、本人の身体の十分な快復のため、登校はさせずに家庭で休養させてください。

この場合、出席停止となり、欠席にはなりません。

下記の病気と医師から診断されたときには、学校まで速やかに御連絡ください。

出席停止後の登校にあたっては、下記の出席停止期間を守り、登校させてください。

第一種	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、ペスト、ラッサ熱、マールブルグ病、急性灰白髄炎（ポリオ）、特定鳥インフルエンザ、痘そう、南米出血熱、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群、中東呼吸器症候群、新型インフルエンザ等感染症、指定感染症（新型コロナウイルス感染症も含む）及び新感染症	治癒するまで 出席停止
-----	---	----------------

	病名	主な症状	感染経路	出席停止期間
第二種	インフルエンザ	寒気・頭痛・高熱・関節や筋肉の痛み・全身倦怠感・咳・鼻水・のどの痛み	飛沫 接触	発症した後5日を経過し、かつ解熱後2日を経過するまで ※発病、解熱した日を0日目とする。
	百日咳	激しい咳が続く・発熱 かぜに似た症状（咳・くしゃみ・鼻水）	飛沫 接触	特有の咳が消失するまで又は5日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで
	麻疹 （はしか）	発熱・鼻水・咳・全身の発疹・口内に白い発疹	飛沫	解熱後3日を経過するまで
	流行性耳下腺炎 （おたふくかぜ）	頭痛・耳の下部（唾液腺）の腫れと痛み（押すと痛む） 発熱	飛沫 接触	耳下腺、顎下腺又は舌下腺の腫脹が発現した後5日を経過し、かつ全身状態が良好になるまで。
	風疹 （三日はしか）	軽度の発熱・全身にバラ色の発疹・リンパ節の腫れ	飛沫 接触	発疹が消失するまで
	水痘 （みずぼうそう）	発疹→水疱→かさぶた・かゆみ・発熱・粘膜疹	空気 飛沫 接触	すべての発疹が痂皮化するまで
	咽頭結膜熱 （プール熱）	高熱・のどの痛み・頭痛・食欲の低下・結膜炎・頸部リンパ節の腫脹	飛沫 接触	主要症状が消退した後2日を経過するまで
	結核	発熱・2週間以上続く咳や痰・胸痛	飛沫 空気	
	髄膜炎菌性髄膜炎	急性発症の激しい頭痛、悪寒、発熱とともに頸部の硬直・意識障害・関節炎・吐き気	飛沫 接触	病状により学校医その他の医師において症状により感染のおそれがないと認められるまで

	病名	主な症状	感染経路	出席停止期間
第三種	腸管出血性大腸菌感染症（O-157）	激しい腹痛 水様便 血便	経口	病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認められるまで
	流行性角結膜炎（はやり目）	目の腫れ・異感・目やに 目の充血	接触	
	急性出血性結膜炎（アポロ病）	突然の強い目の痛み 結膜の充血・特に結膜下出血を伴うことが多い。 目やに・まぶたの腫れ	接触	
	コレラ	急激な下痢や嘔吐	経口	
	細菌性赤痢	発熱（寒気を伴う） 全身倦怠感 水溶性下痢・腹痛・血便	経口	
	腸チフス	発熱の持続・バラ疹	経口 接触	
	パラチフス		経口	
第三種（その他の感染症）	溶連菌感染症	突然の発熱・全身倦怠感・咽頭痛・軟口蓋に苺舌・猩紅熱	飛沫 接触	適正な抗菌剤治療後24時間を経て全身状態が良ければ登校可能
	ウイルス性肝炎	発熱・全身倦怠感・黄疸	経口 血液	・A型、E型：肝機能が正常に戻ってから ・B型、C型：出席停止は不要
	手足口病	発熱 口腔内の発疹 手足末端や臀部の水疱	飛沫 接触 経口	全身状態が良ければ登校可能
	伝染性紅斑（リンゴ病）	かぜ様症状（発熱） 頬に紅斑 手足にレース状、網目状の紅斑	飛沫	
	ヘルパンギーナ	突然の発熱に続き、咽頭粘膜の発赤や口腔内の小水疱	飛沫 接触	
	マイコプラズマ肺炎	初発症状は発熱 頭痛・倦怠感 咳が徐々に強くなり、解熱後も続く	飛沫 接触	症状が改善し、全身状態が良ければ登校は可能
	感染性胃腸炎（ノロウイルス） 流行性嘔吐下痢症	吐き気・嘔吐・腹痛 下痢・発熱・頭痛	経口 飛沫 接触	病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認められるまで